

令和5年3月30日

令和4年度後期アーバンデザインスクール第5回実績報告書

1. 開催日時

令和5年3月23日（木）18時30分～20時00分

参加人数: 15名（UDCBKでの参加: 11名、オンライン: 4名）

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、7回

2. テーマおよび話題提供者

「地域の魅力をつくるパブリックスペースの使いこなし」

- 近年、道路空間や河川空間などの公共空間は、各地で人が楽しめる場へと生まれ変わっている。南草津でも、素敵な公共空間を創造するきっかけとなるように、多様な事例と実践的な手法を学ぶことを共通テーマとした「南草津のパブリックスペースの利活用に向けて」の第5回である。
- 第5回の本スクールは、アーバンデザインセンター大宮(UDCO) サブディレクターおよびデザインリサーチャーの石黒 卓 氏を講師に迎え、立命館大学 理工学部 教授で UDCBK センター長の岡井 有佳 氏のコーディネートのもと、大宮駅周辺における「ストリート」からはじまる公民連携の仕組みづくりやデザイン、プレイヤーの発掘など UDCO の実践例についてお話をいただいた。



3. 話題の概要

石黒氏による講演

(1) アーバンデザインセンター大宮 (UDCO)

- さいたま市の大宮駅グランドセントラルステーション構想において、交通事業者と地元関係者との間でデザインコーディネータの役割を担っている。
- 2017 年から大宮駅周辺地域の拠点を結ぶ街路空間におけるウォークブル推進に関する社会実験「おおみやストリートテラス」を行っている。
- 地元の店舗などによるローカルコンテンツの創出とデザインの統一などによる空間イメージの組合せによりストリートブランディングを推進している。

(2) ストリートプランツ

- 大宮の歴史の発掘及び地元産業支援、緑化による滞在性向上、維持管理の継続をビジョンとして、ストリートに地元の植木を設置する緑化の社会実験を行っている。
- 長期間にわたって占用設置し、ストリートの日常的な姿として緑化滞在空間が創出でき、短期的なイベントにおいても緑化された公共空間が活用されている。
- 植物の協賛・購入について得られた資金は、生産者への協力費、維持管理費、エリアプラットフォームの運営費に分割して充てられる。
- 沿道建物側のオープンテラスと歩行空間、車道・路肩のストリートプランツの組合せを小さな単位で実践し、規模を大きくしても展開できるように検証している。
- 効果として、緑視率の向上、滞留時間や交通量の増加が見られた。
- 実証実験を繰り返すうちに企業の参画が増え、グリーンインフラ公民連携プラットフォームを形成した。
- UDC が何かを最初から全て用意するというということではなく、参画するメンバーが事業スキームを検討し、プロジェクトの組成から実施までを行っている。

(3) ストリートデザインスクール

- 社会実験の実施を通してアーバンデザインを学んでもらうことを目的に、ストリートを舞台とした公民連携まちづくりの実現についてのプログラムを提供している。
- さいたまに拠点を置く地元企業や行政機関、学生など多様な立場や所属から受講者が参加している。
- プログラムとしては、ディレクターやゲスト講師によるレクチャーからのインプットのみならず、リサーチ、インストラクターとの意見交換、プレゼンテーションや社会実験として実際の公共空間でのアウトプット、成果報告会などで構成されている。
- 社会実験では、歩道・沿道店舗の一体利活用、低未利用時間帯の店先活用、高架下空間・壁面の一体利活用などを行った。
- ストリートマネジメントスクールの展開としては、UDCO が関わりながらも、大宮の

未来をつくる人材や新たな事業アイデアがまちに生まれ、大宮にかかわる人が増えることを目指している。

4. 質疑応答等

- (1) 岡井氏: 効果検証まで実施されていることが素晴らしいと感じた。大宮と同じように道路空間を利用することは草津では難しいかもしれないが、公共空間をつなげていけば、何かできることがあるのではないかと感じる。また、バラバラに事業を行うのではなく、統一したプロジェクトとして示すことの重要性を感じた。なお、ストリートマネジメントスクールに参加された会社員の方は、個人として参加されているのか。

石黒氏: 会社からではなく、個人として参加されている。

岡井氏: 大宮で何かをしたい人が集まっているのか。

石黒氏: 実は、一年目は、地元に関係のある企業から派遣されている人も多かった。ただ、二年目は、あまりそういう人はおらず、学びたい、何かをやりたいという意欲のある人が集まった。

岡井氏: 行政を含めわざわざお金を払って参加しているということがすごい。

石黒氏: 参加者にとっては、お金というよりも、むしろ、時間を割いて参加することが難しい。働いている人も多いので、自主的に平日の夜や土日にミーティングを開催され、UDCO も参加・助言した。

- (2) 参加者 1: 地域の資産をつなぐという視点から事業について教えてほしい。

石黒氏: 大宮駅前にはチェーン店が多く、少し離れたところにローカルなお店が点在している。東京を小さくしたものをつくっても仕方がないので、ローカルな雰囲気、大宮らしさは大切にしたい。地元事業者に力を付けてもらうという意味でも、駅前と地元の事業者をつなぐという点で事業を進めてきたのではないと思う。

参加者 1: 事業者などのプレイヤーから理解を得るコツはあるか。

石黒氏: 社会実験 3 年目に当たり、事業者にアンケートを行ったところ、売上増加という合理性というよりも、新しいきっかけを探していることが判った。そういう意味では、ネットワークの価値を生み出す機会をつくるが大切だと思う。

- (3) UDCBK: ストリートプランツで地元の植木産業を活かすという発想は、プラットフォームのディスカッションの中で生み出されてきたのか。

石黒氏: 時系列的に、プラットフォームができたのはストリートプランツ開始から 2 年後なので、プラットフォームから生み出されたわけではない。発想に至ったのは、社会実験の中で、休憩スペースの目隠しとして、地域の植物を置いたとこ

ろその植物を買いたいと言われたことがそもそものはじまりである。その中で、植木が地元産業でもあると判明し、「買える街路植栽」という実験的なプロジェクトの構想に至った。ある意味では、偶然のきっかけがあった。

UDCBK: 社会実験を積み重ねていくことで、そういう機会が生まれてきたことが判った。

(4) 参加者 2: ストリートプランツで生産者と店舗が対立するということはないのか。

石黒氏: これまで対立といったことはない。UDCO が両者の間でコーディネーターとして役割を果たしてきた。色々な課題があっても、一緒に解決してきた。

(5) 参加者 3: 道路空間の利活用において、UDCO だからこそできたということはあるか。

石黒氏: 行政にとって、民間会社に公共空間を長期間占有させることはリスクがある。UDC というある意味で公的な性格を有する団体であるので、行政も安心感を持って許可を与えることができたのではないかと感じる。

(6) 参加者 4: ストリートプランツの費用面のことについて教えてほしい。

石黒氏: 植物は、一鉢 1.5 万円から 2 万円程度である。購入希望者は設置終了後に植物を取りに来てもらうパターンもある。協賛や購入で得た全体金額のうち、5 千円ずつが生産者・維持管理者・運営者にそれぞれ資金が還元される仕組みである。生産者にはこの価格帯にも納得してもらっている。

5. アンケートまとめ

当日参加者、アーカイブ視聴者を含め、アンケートに回答いただいた方は 8 名だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
4	2	2	0

(2) お住まい

草津市内に 居住	草津市内に 通勤・通学	県内他市に 居住	滋賀県外に 居住
3	2	0	3

(3) 職業

学生	大学関係者	会社員等	その他
3	1	2	2

(4) 開催を知った手段（複数回答の場合あり）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
1	1	0	4	0	2	0

問2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 道路空間活用には、キッチンカーやバザールが最近主流となっていますが、大宮はいち早く取り入れ、尚且つ人々の滞留空間を生み出し利益も得ている点に感心を持ちました。UDCO が仲介役となって、事業を成功させて UDCBK も学ぶ点がたくさんありました。ありがとうございました。
- 地域、市民側から切望されて立ち上がったとの事ですので UDCO に対する期待感も大きいと思われませんが、数年でしっかりとそれに応えておられるだけでなく、エビデンスを伴った分析に基づいた仕掛けや広報など、まちづくりのモデルとして理想的な活動を実践されていることに深く感銘を致しました。これからも地域の発展に向けた取り組み楽しみにしています。
- （拠点の）間を「うめる」「つなぐ」という考え方の源流を考え直すきっかけになったと思います。ぜひ一度訪れてみたいと思います。
- 感度の高い市民とどのようにつながっているのかが聞いて良かったです。新しい価値に出会いたい人々や、そのネットワーク構築に価値を見出せないようでは草津のデザインは進まないと感じた。
- ストリートプランツについて質問させていただき、丁寧に教えていただきありがとうございました。
- ストリートデザインスクールでは、インプットが初日に行われ参加者の実践へのフィードバックを2回、中間報告を待って、現地実施を評価し修了証が発行されるということで、事業者参加の記録が民間に保存され、まちづくりに関与するつながりが形成されているのではないかと思い、関心を持ちました。

問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 今回のプレゼン資料を拝見できるとありがたいです。
- ウォークブルスペースによる修繕工事の事例について関心があります。